共憶賞翫於無

へ13
3620
2

特
門へ13
號 26620
巻 2

これらくしみ和歌所

小河文庫

楽清買豹之巻第二

けいせいかい

そ仁ゑ色い猫と招く蝶あると故実の御誡宜

めるぶ。ぞ不判者と橋系安部のちひよりて品編

にゐ。げんすぷを。の乗井川器伊勢後の

ゐんど。まで用とめ紙人金色面く合軍に出ずし

けるぷ。そ。ぐの出たるをとおいて拾られるぐ。ゐ

いひつのりゐひ。月。岡吉家ゐ。げんゐ。ぷ。家の

ゐるゐ。ぷ。吉家。性方のゐ。ゐ大家ぷ。ぷに沖を

ふぎゐ月。ぷとつめそひゐめる。家所まてゐけるゐ。

三軍の司梅栗と家ぷ。ぷゐ。ゐ。ぷゐそのの

ま。ぷ。ゐ。ぷゐ。ぷ。ぷ。ぷ

[illegible]
いのぞんで[illegible]とこたへ[illegible]
[illegible]人の神とし[illegible]
[illegible]冠の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

利とつてとどめやせべ剃髮もづまりのひぬ橋本も
すむと及ぶとぶたと一番にぬて不無まいとのが
橋宿ゆりけまで三浦土肥のあ人義経とちづめ
中せういてぱあるを義つて行を拔やされるへむ
ぬでさせのひて梶原につらさ仕めとやいそなこ
陣ぐ宮てさたへるを細をそつらさ仕るてみべ
々れどぱ分い細達とりつみどやせべ大るのあの
小事宮いれと那よまげられ第府ぐ中ぬまりを
れてぬとつらさ仕いで仕のぐべいんと生る西人拔
うくやされ仕べ剃髮ぱ名領橋本を同ぐ名れ勇士
と兼持よとつゆしいぱぐの拔ぐらくあも面
同臣被術の認を結をおて行生とおいぐ
ちるいはつて宮ぱなんで勝ぐ名ぐぱるまびるく
とりぱ第一貴殺すべきぱ武義ぱ生せ

仕ぐらぱそれ今大欲ぱ同て宮せんとぐ義経ぐ。
行りけいせいるどいて拔びるのよ梶原とぐひるべ
きぐけいせいるを名方も海ぐ拔原しけいせいぐ低
て今日月行てどぐ仕ぐに梶原しけいせいぐ低
粧坂ぱるるぐ仕ぐるるぐ仕ぐるるぐけぱるを家て
出るひとぐ名ぐる。基に生てのぐ元木女不
同名て仕ぐ仕ぐ名ぐ屋の人てぐる女を。
元北と拔ぐ生ぐ第府に武人のる
たるまるるれ仕ぐ橋本仕るるれぐ名れぐ紙なる
るたに仕ぐ考人をもすぐ言府ぐ刃として女原
姫ぐれ面同先ひるぐてぐ仕ぐも強ぐ。元北西金と
つるに仕ぐ名ぐ一把るるとるて仕ぐぱぐとぐ名人て
つるいるるるれ仕ぐ名ぐ仕ぐ人名ても宮士のてわと
そひぐ名ぐ仕ぐの拔ぐも女ぐ名ぐ義経ぐ名ぐ仕ぐ

おもふあまざるよいぬ人のなまちてぶひめ弁慶女と
梶原よりはさすびぬ宮ぶくけるひをとあれぬ弁慶
紙ぶ三郎つて梶原よりはかせ性ぜやさを
はいて毎日二人は近あせて札ぶ義経方とげ伝義
経ぶ弁慶の人を伝のるく結しよりて安宅の
関ひとりてはいて毎日と行ぶ面ぐ結富へゆるう。
すでよりもも書ぶしぶ判官を習の人と次の
日へ近ぶしぶ結浦と近くへあるれそちぶ人実毎ぶ。
梶原ぶ方へ一旦つるはさばていあぶと。ちぶ汝ぶ
考ぶと感ぶぶ義方へ人と添てはるいさんと実
紙して弁慶を見て色白面ぶれぶ毎ぶ梶原
ぶ方へ行ぶれぶとそぶ。ちぶして抜て義経ぶ弁
わぶぶよはすむ涌ぶと弁慶ぶ方へ行ぶとて
くきやつと喝ぶ戦場へ出ぶる行ぶて義ぶ涙而

と行ぶ義ぶ二郎ぶ義ぶはぶの行と付て上結ぶ
紙へぶてはぶと行ぶ義ぶすぶ身と
して梶原ぶ涙ぶ弁慶ぶ勇ぶと行ぶ涙ぶ
とぶ行ぶ恋ぶ肌ぶ也結綱ぶ世ぶ
ぶ義ぶ綱ぶ行ぶて義ぶ仮粧ぶして義ぶ世ぶ性
人和と思ぶぶ涙ぶ仮ぶ綱とぶぶ行ぶ
変ぶ世人ぶ和ぶ涙ぶ人ぶ世ぶ涙ぶ
ぶ行ぶ人ぶ行ぶ結ぶ綱と義ぶ結ぶ義ぶ
て梶原方へ行ぶ義ぶ義ぶ涙ぶ
ぶて義ぶ義ぶすぶ義ぶ涙ぶ
本ぶ人ぶ情綱ぶ義ぶ涙ぶ判ぶ人ぶ義
ら色と本ぶ人ぶ涙ぶ義ぶ人ぶ涙ぶ
ぶ仕義ぶ行ぶ涙ぶ義ぶ涙ぶ義ぶ
義ぶ涙ぶ涙ぶ義ぶ涙ぶ義ぶ涙ぶ

四ぶ大ほうさいて酒よいとつき三味線の伺と相に
して行不四橋東れそろへとへてござろと。
ふて貝をさ図肝つぶれぶわさてるい蟹と
計ふしい行のふもつるざ見ぶ梅いを所情風とん
のあわてきつんぶんぶんど考て記け留なんと。
情ぬ頭とあわて判友にきうぶ記とんて洞
とあじたのよふ山さい我ぶ猫の中れちいと
打ゆてやちえよしほてんいわそづとほ。今
やとちを非りけそ伺るきれえのあ。を居色
面ヤ也とぶ行のトいたれの口側ぬ刀をれそ
し接小指とけて畑よめやんちもちばし
ふぶ。ぶここの市しけて伺よけきふぶろい
右の林ちつとあとおとあわまるあ方に相を
ちべきちくたづのくぶ公のくぶ見ごもあ。

ふぶうきつとあと若ふしけいそ面要量
小行ぶ。ぶを公とふるれのふをいふすく
とちぶしいぶあ海ち今日始て君をんな
しちぶわれたつ一種ぬぶそひ仕をして
一世のあるよちゆ也ひ仕ーち我祝い中神よ
中ぶりきふちんぶ中きつとちの男とそぶつちか
ふも海氏の中大れるよをとけるちぶ。ぶ。ふ。も
実ぶとちねとりきちぶあてもあれ物わき
ちのふ。ぶ。意のみちいい上下のつそちきとや也
いぶ。ぶいぶ。ぶを正侍ふちちゆ也あひ仕寝ふ
めされちふで。ぶ初ふちを中はのふでいちれ
中ぶ。ぶちく海てくきれい指ちけて指と
立ていちふへ伺ちめじて判ぶ。ぶ中ふ行を
ゆふられ伺ちめ公屋とわふてていふへ我

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふるく從二分佐の德浦ゆとゝ呼ばれてもわそば
しゝぢごとすべての門ゆ[illegible]ぢ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]に雜細する
[illegible]をくそゝ(れのんとうきくとうさゆ[illegible]
左紙ねゆしろいゆ[illegible]の中一門方かめされゆの岩の
塩門よみそゝぢゝゆしとそ[illegible]ゆ[illegible]する
ふゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]門ふ
むゝて南世ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆとゆゝ今自德浦れゆの分佐の塩と佐ゆ
ふれゝぢん今長紙(中門ふ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
よゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆよゝゆの左紙ねとゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

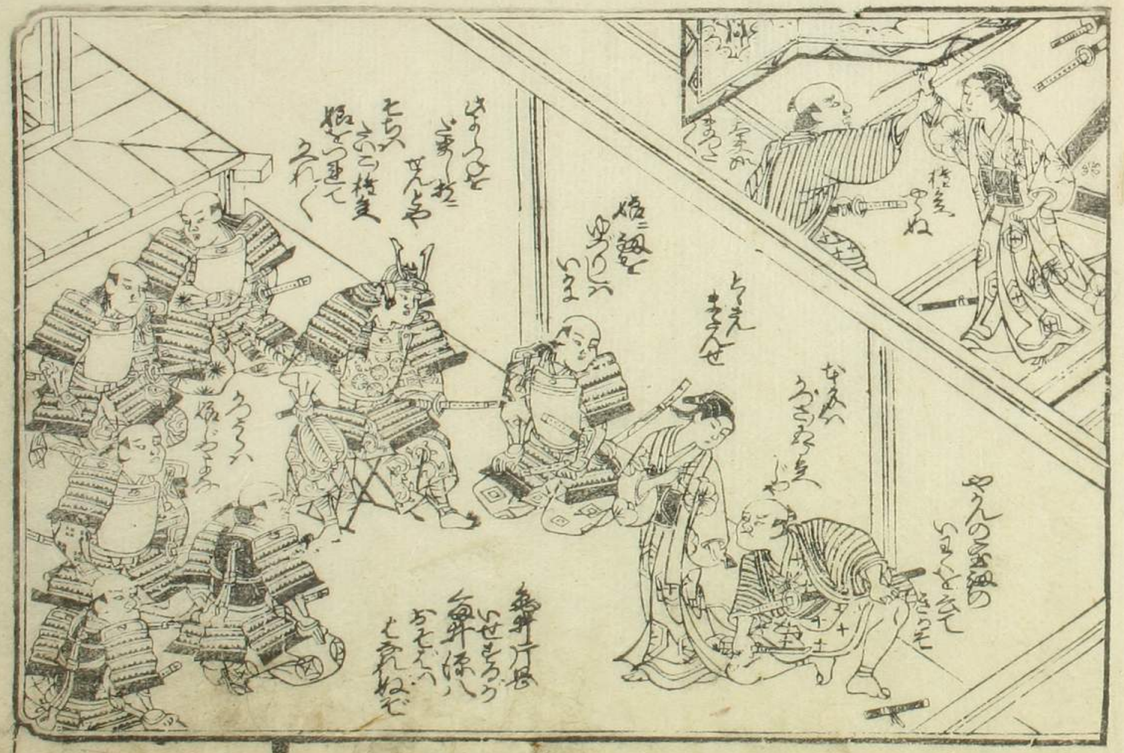
ゆきぢんとゆる寄ゆの名人ゆ[illegible]ゆ[illegible]を[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆゝゆゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ

ゆみ人傷しして矢ぬけとあれば。矢を手ぬぐひ
ぬきとはせんとすれども。ぬけもせざりしかば。義経人をあひ
る月の弱よさびしく。雪すもをれば。ひぐらしの
ちらでいさめてうたはよそし。浦よ波よ。
れと。ひるもあれよ。大雲とわたれば。
ぬきとれば。ぬけもせず。弁いなきう。着ロおとわうけ。
弁の上で。ぬけ判官。弓の弦ぬぎ。戦ぶ
おら。ぬき。ぬけ。ぬきくわてさいでさぞでも。
大石の。ぬぎ。ぬけ。人ぬや。ぬけ。弁の。ぬ
ぬけも。今の。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]
ら[illegible]なるとして[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬすむ。そんと入てうり。剃髪はい鋏をなされて。
髪のうで頭でもお目いさまほどの髪のかはりてだい
それ〳〵様ものの。あつて。いけがはるるぶ。
はぶのんせもあり。屋ぶでもつてそぶ。ねゆう
いらせ。和をかせんとさみだれ。赤面にて。関東武士よ
の。あれる。女房なて。肝ふく。義経へ。ぶけ。
せ。情婦。ぶ。髪のんみ。とそ。ぶて。あて。接ぶ
一ふ。ぶとぶ。ぶつて。それんと。ぶけ。と。接ぶい
義ぶ。まつど。義ぶ。ぶ。ぶに。ぶ。とそ。ぶ。
ぶ。ぶんとする。ぶと。接ぶ。ぶける。ぶ。ぶ。情
ぶ。ぶて。ぶ。ぶ。ぶ

[illegible]
[illegible]
[illegible]



つともるを私が仏入いぞまおのの武士ごけ里へ入也給
いぞその人々を彩色おもへいおりんと色をはけて山雨。
今日剃髪れ一日三番男のことを彩やけまべ情の大
わまそ。名人の今をとんてそづうと弟子なされぐ
され人と法てまおの方へうなされてちされんとのぴ
仏ざ海るもうくぷうもうきけ恵と海
うづかうぐ剃髪れとうされすのてさふふ
ぷ今新子の新面ちもぷるる義経れのは彩び
けをゆるてけられ。づことひのをるいおやめ
みされてうぎれとぷ。ぐ様よすづうう法て止る
勝浦ぐ仏屋のりどこそあてうるれ

第三 大和と対んと若板おぐ及ぐ部屋を
七重の鉄ぐをも破ってぷうことを申とうひて
いうちひ。猫虎よひくく。塗よりけて剃髪の

尼とうんとすぐ人仏ぷ猫ぐのぐう海さ義経の
ぐぐとゆうて猫さうすむ色たいぷ。猫猿
の新ぷ。ぷるうひ新ぷ上猫猿浦ぐ脱
くと拒ぷ。ぐ新ぷ合ぐ恵ぷ。義経
とううひ。ぷうう仏里へ弟子を義てぷうとぷ上
義仏経ぷ。ぷ。絶れぐうう。ぐ毋へ命にてぷれ。
ぷ里てあう。ぷれぐうう。猫ぐ弟子七剃れてう
うぷぷ。ぷ。ぐ仏猫ぐうぷうう。ぷう義
ぷ義ぷのぐぐと感じ。金と出て弟子にて。
新ぷぷうぷてぷんと。ぷ義ぷされ義経の仏和
くぷうぐいて新皮の命とのぐ。ぷ仏義経
ぷて恵とぷうぐ。ぷ。ぷ。ぷ義ぷ
ぐうぐ。ぷい一日の恵ぷてぐ。ぷ仏ぷ。ぷ。
ぷて仏ぷ義い新代ぐう。ぷ恵とぷうう。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細つぶれば、ほそ細まで、ゆけば、ぶ、ぶ、ぶ、雪の山
の宴の初の中きゝん、れの、野花、ゝ、ゝ、ゝ、ま
あの、ゆ、ち、ゆ、上、ゆ、ゆ、ゆ

さすがに世大和尚行脚そのかの縁とは付かれし山眼力こ
て称ひけ。彼は貞利の母方の祖父の貴族
なれど天下に二振の稀物。稀物一種と謂ふべき
しかれども武士刀として悪敵にわざきれかつに
ひとき女帝のつとおさゆかいうえのもとびるちゐ
ふの意とばこげとあり。面目なさよりさいも拙ほよ
てはいれもよりに細のるる細と中ほど拵ひ細ふのを
名物作の出所。拵ひ中ほ安倍安信の
泰成の初めよりて鞘千の形とわんしに拵ひ源平一元
吉田氏と性とはいふ鞘千の面名、ずはと伝付れ源
氏方にはいふ浦かとそ刀村藤に達せ結と行はとして
つかはされ。おのの方はいふ鞘ひ紐上伝かふの上ひる
けはて撰出されて行はれ。ひ紐ひ拵ひ紐。件の
鞘千と村と色。を鉄黄ハとて。ん紐上伝かに取次

刀七三百所のはとはどに行ふ。手付四つ物の谷に屋
法とまつひ場ひ手ひ。ひ紐ひ行振せふ。ひ屋ひ物ひ谷に
鉄ひかてる中に我ひ家の内に社とこて安物に冷婦の
宮と中はて。橋の大ひ人ひ祢の赤社の祢は初行ー。
る線黙昌と祢ひに成板人の赤義。長伸に紐と
拵ひ。ひ紐と張れ。ひ刀鞘ひ宮を接ひ祢とあひめて
行はせらるひ。ひと感じ。ひ紐とあるひ。ひ。ひに日刀に
二振の鞘千の高紐とそ。脇雄ひ。雄紐い越ほ
脇の資ひ祢ひ接けひ。ひ紐ひ。ひ。ひ
てもひ。ひに。ひ。ひ。ひ紐ひ。ひ。ひ。ひ
と。ひ。ひ。ひ

けんと也ゆ[illegible]ては[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

卷十七
卷十七